



YFA育成年代U10-U18

保護者ガイドライン

# 選手にとって保護者とは

育成年代は、多くの人の関わりの中で**人としての成長**を果たします。そして、多くの人の関わりにはそれぞれの役割があります。

昨今、「子供とは友達関係」「子供とは兄弟関係」「親は子供のサポーター」などの言葉を耳にすることがあります。この場合、この子供には親の役割として成長に関わる人がいないこととなります。**誰よりも深い愛情で厳しくも、優しくも関わることが出来る親が存在しない。人としての成長に偏りや損なわれるものが現れる恐れはない**のでしょうか。故に、**保護者には選手に対して「親」としての関わり**をお願いします。

YFA(山梨県サッカー協会)では、育成年代の選手に対して好きなサッカーを通して**人としての成長**を果たし、将来、**多くの仲間と共に豊かな人生を歩む**ことを目的として指導を行います。だからこそ指導者は、決して**利己的な判断で選手を指導**することがあってはなりません。また、**選手の自発性を培う**為に「責める」ことは止め、「褒める」ことを増やし、**健全な社会性を培う**為に「叱る」べき時を見逃さない指導を行います。そして、児童期(~U12)までは**「してあげる人」として多くのことを選手に学ばせ**、思春期(U13~U18)からは、してあげることを少しずつ減らし、「見守れる人」として**選手の自立性を培う指導**を行います。

はじめに「YFA選手育成指針」について紹介し、Vo.1では「選手像」、Vo.2では「人づくり」について保護者の関わり方を確認します。

## 目指せ強豪県復活！一貫指導体制の実現

### 山梨県の目指す選手育成 4つの柱

ゴールを目指し、たくましく（球際に強く）チャレンジし続ける選手  
～1対1の攻守にタフな選手へ～

#### 選手像

魅力あるレベルアップ  
研修による、魅力ある  
指導者の創生

指導力向上

環境づくり

1)ゲーム環境 試合を通しての選手・指導者の豊かな成長

2)活動環境 幅広い世代への活動場面の提供と特長ある選手の創出

3)種別間交流 選手を次の種別へ繋ぐことができる指導者間の交流

#### 人づくり

リスペクト 〈礼節を尊ぶ姿・奉仕する姿〉、  
ハードワーク 〈努力する姿・諦めない姿〉が体现できる人

# 攻守にたくましく(球際に強く)

## チャレンジし続けることができる選手の育成

### Badな関わり方

#### ・局面の出来ばえに一喜一憂してしまう声援

「抜かれた、失った、バカか、何やってるetc.」

⇒うなだれる選手、自信の喪失 ⇒プレーの停止

#### ・審判に対するクレームボイス

「おーい、逆だろう、ちゃんと(笛)吹け、オフサイド！ etc.」

⇒戸惑う、共鳴する選手⇒プレーの停止

### Goodな関わり方

#### ・できる限り、黙って見守る事に努める

→選手は内発的なモチベーションと自らの判断で成功や失敗を経験

⇒「自立心」と「責任感」の芽生え

#### ・プレーの連続(攻守の切替)を推奨する言葉がけ

→抜かれたり、ボールを失ったがプレーを連続 「ナイス、いいぞ」

⇒「ミスとはプレーを止めた時である」ことへの気付き

#### ・審判へのクレームボイスは厳に謹むこと!!

# リスペクト（礼節を尊ぶ姿・奉仕する姿） が体現できる人へ

「人としての成長を果たした姿」とは、「**自己の義務（やるべき事）**を果たし、**自分の為ではなく他者の為に判断や行動ができるようになること**」です。このことにより、**責任感があり気遣いができる人へと成長し、多くの人と関わることができる魅力的な大人として自立を成し遂げる**こととなります。

よって、**保護者（親）の役割**とは、子供が**自己の義務（やるべき事）**を果たすことができる人、また、**リスペクト（礼節を尊ぶ姿・奉仕する姿）**が体現できる人へと**導く**ことにあります。

## 1) 自己の義務（やるべき事）を果たすことができる人への導き

① 育成年代U10-U18の生活の場は学校です。児童・生徒として果たすべき義務は学校生活を整えることです。

→ 学業、学校行事、クラス活動（清掃・HR）の不備を見逃さない。  
⇒ **学力（成績）は人間力のバロメーター（目安）**

成績が高い：計画力、実行力、継続力、責任感がある人

成績が低い：言い訳が多い、気まぐれ、自己中心的な人

⇒「サッカー(やりたい事)は100%、  
学業(やるべき事)には無関心・無責任(無頓着)」

これでは人としての成長もなく、大好きなサッカーにおいても本当に苦しい場面で、責任を果たすことができない選手になってしまいます。

⇒学校生活を整えて(やるべき事【義務】を果たして)、サッカーに取り組む(やりたい事【権利】を主張する)姿勢を身に付けさせる。

②家庭生活において「できる事」を増やし、「やるべき事」として自ら整えることができるようにする。

→「してあげる」(~U12)から「させる」関わり方へ(自立)

⇒面倒くさいができる人となり、着実な準備を持って物事に当たる  
ことができる人へ成長させる。

③チームの準備や片付けを自ら進んでできるようにする。

「言われたらする」⇒「言われなくてもできる」への成長

## ④トレーニングにおいて選手がやるべき事をする姿の共有

### Badな関わり方

- ・仲間の動きを後追いしながら、仲間と同じ動きをすることをトレーニングの目的とする姿

### Goodな関わり方

- ・指導者の説明からトレーニングの目的、オーガナイズ、キーファクターを聴き取り(注意深く耳を傾け、動作をイメージする)、自らの判断で動き出しができる姿

## 2) 礼節を尊ぶ姿が体现できる人への導き

礼節とは「礼儀」と「節度」である。「礼儀」とは人間関係や社会秩序を維持する為に人が守るべき行動様式である。「節度」とは状況に相当した度合いのことです。

つまり、礼節とは「礼儀」を持って心から相手を思い、「節度」ある行動をとることとなります。

このことを身に付けさせる為、「自利利他(じりりた)」「《相手を幸せにすることで自分にも幸せがやってくる》」の精神を子供に理解させて下さい。

### ①挨拶や返事をハキハキとすることができる。

- ・自身が「しました」ではなく、相手に明確に、快く「伝える」

### ②人の話を聴く(注意深く耳を傾け、自身の成長に繋げる)ことができる。

- ・話しの音を聞くのではなく、話の意図をイメージ(映像)に転換

### ③正しい言葉遣いや正しい姿勢をとることができる。

- ・感謝、敬意が伝わる言葉遣い、姿勢

### ④周りの人のことを考えた行動をとることができる。

- ・人を不愉快にさせる行動を自ら抑止



### 3) 奉仕する姿が体現できる人への導き

奉仕とは報酬や見返りを求めずに労働や行動を行うことであり、自分のことではなく、他人のことを考えて行動する様のことです。

つまり、私心を捨てて、社会や他人の為に尽くすこととなります。

自身に関わる全ての人(家庭、学校、地域、チーム)の為に、できる事は自ら進んで行うことができる。

⇒「どうして、私がやるの？」ではなく、「私がやります」という「自分のことはさておいて、人の為に一肌脱ぐ」思考を身に付けさせる。

# ハードワーク(努力する姿・諦めない姿) が体現できる人へ

「豊かな人生を歩む」ために必要なことは、目標達成という「結果」ではなく、目標達成に向けて整えるべき準備を行い(努力)、目標を達成するまで整えるべき準備を継続できる(諦めない)という「過程(プロセス)」にあります。

よって、保護者の役割は、目標達成という「結果」を追求しながら、子供が「過程(プロセス)」においてハードワーク(努力する姿・諦めない姿)を体現できる人へと導くことにあります。

そのために、保護者は試合結果や子供のプレー結果に囚われることなく、子供の「過程(プロセス)」におけるハードワーク(努力する姿・諦めない姿)の体現を指導・評価することに努めなければなりません。

- ①何事(サッカー、学校・家庭生活)にも一生懸命に取り組むことができる。
- ②出来ないことを出来るように直向きに取り組むことができる。
- ③声を出し、体を張って、ボールに関わり続けることができる。

# 保護者(親)としての姿

ここまで選手がサッカーについて身に付けるもの《ゴールを目指し、逞しく(球際に強く)チャレンジし続ける選手～1対1の攻守にタフな選手へ～》、サッカーを通して学ぶべきもの《リスペクト〈礼節を尊ぶ姿・奉仕する姿〉、ハードワーク〈努力する姿・諦めない姿〉が体現できる人》を習得する為の保護者の関わり方について確認をしました。

そして、最も重要なことは保護者が伝える言葉ではなく、保護者が子供に関わる姿となります。

親自身が「損をしたくない」「得をしたい」であったり、「やるべき事【義務】を果たさずに、やりたい事【権利】を主張する」ような姿では、選手が人としての成長を果たすことは期待できません。「子供は親の鏡」です。保護者自身が生活の中で見本となってください。

子供を宝石に例えると「原石」です。「原石」を磨き上げる為に最も硬質(厳しさ)で最も柔軟(優しさ)な研磨材になり得る存在こそ「親」です。

指導者は、サッカーを通して子供「原石」が大人となり、大人が紳士「宝石」となるよう導きます。保護者には子供を磨き上げる為に必要不可欠、唯一無二の磨き手としてのご協力をお願いします。

# リスペクトー暴力・暴言の根絶ー

誰もが安心・安全に心からサッカー、スポーツを楽しむために

サッカーに  
暴力も暴言も  
いらない!



自分を成長させてくれた、大好きなサッカーだから  
誰にもきらいになってほしくない!



公益財団法人 日本サッカー協会

誰もが安心・安全に心からサッカー、スポーツを楽しむために



リスペクト宣言

## お互いに、ありがとう!

サッカーは楽しいもの。自分がやりたくてやるもの。そのためにも、安心、安全な場が必要です。

サッカーには暴力も暴言もありません。子どもたちの挑戦する勇気を見守り、励ましてください。

子どもたちは精一杯がんばっています。応援してください。

相手チームも大切な仲間です。両方の良いプレーに拍手を送ってください。

審判員も、子どもたちが思い切ってゲームができるように、良いゲームになるように、一生懸命努めています。応援って励みも準備もしています。応援してください。

フェアプレーはみんなの約束です。1人審判はみんなの協力で成り立つサッカーのすばらしさの証です。

運営の人達は大変です。子どもたちのために良い大会にしたいと頑張っています。ぜひ「おつかれさまです」と声をかけてください。

保護者の皆さん。いつもありがとうございます。子どもたちは皆、感謝しています。

サポーターも、すばらしいゲームをつくる大事な仲間です。爽快な良いゲームを!

ボールは僕の相棒であり、宝物。スパイクもバッグもお気に入り。大切にします。

すばらしいピッチ、きれいな施設、きれいに使う。ありがとうございます。

たくさんのチャレンジ、成功と失敗。達成感とかやしざ。勝っても負けても、すばらしい経験。子どもたちの成長をサポートできることは幸せです。



公益財団法人 日本サッカー協会